



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



安心・安全の事業継続を再確認

ワークネットやはた 施設長 原田秀範

新型コロナ禍も三年目となった今日、第七波が大波となつて押し寄せ全国的に大流行。当法人の存在する地域においても大感染の余波を受けています。私の担当事業所であるワークネットやはた（B型・就労移行・生活訓練・定着支援）も避けて通ることはできず、八月に初め



暑さにも負けず、マスクをつけてアイロン仕上げに挑む

て二名の感染者が出ました。

法人挙げて感染防止対策は進めておりますが、国からの通達もあつたQOLの必要性も間違いないところであり、利用者、家族に多くの行動制限を設けることも相応しくなく、また福祉サービス展開は集合支援が多い一面があるといった背景の中において如何に有効的感染防止対策をするか安心・安全のサービス提供に苦慮しているところです。

事業所での送迎時の手指消毒、マスク着用、分散・黙食他、職員の行動規定に至るまで多くの対策を講じていますが、先述べした利用者のQOLに限らず、職員の家族も含めた生活の質の制限は長期になると「何のために働くの？」といったストレス生活になつてしまいます。

まさに国のコロナ対策か経済活動かに合致するところです。

コロナ禍以来利用者の楽しみの行事等も縮小あるいは中止を余儀なくされる他、職員においても飲食を含む行事が中止となり、コミュニケーション不足や組織連携にも影響が見られる気がしております。

そして、ここ数年はウィズコロナの中で新しい生活様式とともに新しい事業所運営を模索する必要があると考えます。

権利擁護における意思決定支援を鑑みてコロナ禍で低迷している就労活動と併せて運営に係る利用率の問題等や、様々な対策を講じながら継続的な事業計画を進めていかなくて



はなりません。

本日、長崎に大型台風接近、事業所運営の対策を前日から考えていた矢先、今朝のテレビ報道にて送迎車両に園児が取り残されて死亡するという痛ましい事件が報道されました。

私たち福祉従事者は主に社会的弱者を支援しています。とにもかくにも「命」を基に置いた上に様々な支援が成り立っております。

コロナ被害に併せ、近年自然災害が多い中、安心安全を常とした事業展開が最優先されるべきであり、その上に工賃向上と質の高い就労訓練等の支援があるので常に考え安心安全を以て施設を利用していただくこと。また、継続的なサービスは常に信頼の上に成り立たせなければならぬことをスタッフ全員で認識できるよう図っていく必要があります。

そして今朝の職員朝礼において、台風での業務確認と共に、全職員このことを胆に銘じて始業したところと

「ウチのむすこ」

伊藤 寧

今年高等部を卒業した息子は179cm 78kg、切迫早産で産まれた赤ちゃんがこんなに大きく成長するとは、当時は夢にも思いませんでした。保育園では控えめな子ではありませんでしたが、力が強く気持ちの優しい幼少期を経て、小学校四年生頃から周りの友達に比べ学力に差が生じて来て、校長先生から『特別支援クラスで本人のペースに合わせた授業』を提案して頂きました。毎日登校し、「辛い」とか「嫌だ」とかは一切言わずに伸び伸びと成長する矢先、小学校六年生の冬に「脳腫瘍」が見つかり大手術を乗り越えて来ました。

手術の前には「お父さん：手術が失敗したらオイはどうなるか？？」との問いに私は言葉が詰まりましたが「絶対大丈夫ささ！」としか言えず、自分の無力さに涙が出て来ました。

島原特別支援学校では生徒会に所属し、体育祭では仮装して踊ったり歌ったりと充実した高校生活を経て、進路相談時に『いきなり就職して色んな壁にぶつかり心に負担を掛けるよりも、就職へ徐々に訓練を重ねて丁寧に優しく慣らす事業所の『ワークネットやはた』さんへの進路を提案していただきました。

体つきはすっかり大人っぽくオッサンにさえ見えますが、心はまだまだ純粹で真面目な子供のままです。

将来を思えば不安は尽きませんが、次第に出来る事が増えて社会に必要とされる心優しい人間にこれから成長して欲しいです。



Withコロナは、できるか…

新型コロナウイルスに振り回されるようになって、もう二年以上が過ぎようとしています。初めは、『発症したら死ぬかもしれない』と脅かされ、伝説の「メデイアン」「志村けん」さんの突如の訃報が、それを助長したように感じました。早すぎる死、当たり前前の事が当たり前で無くなりました。いく世の中に、不安や失望を抱いた人も少なくはなかったはず

です。マスクを買い求めて、ドラッグストアの開店時間に並んだことは、不思議と懐かしくも感じます。私自身、行動範囲も狭くなり、自宅に居る時間が増えました。施設においても、どう防止しようか、対策を練るといつても前代未聞のことであり、全てが手探りの中で行うしかありません。

現実

しかし、福祉の現場として、それは受け入れ難いことのように感じます。例えば、私たちのような福祉施設で陽性者が一人でも出ると、県、市、保健所、利用者及び各家庭、法人内の他の施設に報告する必要があります。手分けしても半日や一日の仕事の優先順位は一瞬で入れ替わり、支援員は、部屋の換気と消毒のやり直しに追われます。更にそこから二人、三人と増えるとクラスターと



実家で家族と面会した諸隈さん

グループホームに入

居されている諸隈さんは、三年ぶりに自宅へ足を運ぶことができました。特に、高齢となる利用者の方の日常と違う行動には、職員も判断を悩むことが多くあります。

命か、幸福感か…難問です。



秋季大運動会 意事に終了しました

去る十月九日(曜日)に、令和四年度の『ほかにわ秋季大運動会』を無事に終えることができました。練習の成果を発揮することができ、みなさん満足いく運動会となったようです。ご家族の皆さん、関係者の皆さん、ご協力ありがとうございました。



売りたいか。なう@

びっくり箱「秋の便」をご紹介します！南島原市の旨いモノ7品目の商品を準備して発送いたします。その一つ、「ブラックベリージャム」は、同法人の「デイ雲柿の木」で栽培から収穫、加工に至るまでの全ての工程を行っています。保存料は一切使用しておりませんので、安心して食べて頂ける一品です。

ご友人やご家族に、ぜひびっくり箱「秋の便」をご利用ください。

(中村要平)



責任と代償と

都会の事はわかりませんが、ここの島原半島のような地方の田舎では、すぐに噂は周ります。施設の名は時に電波に流れ、施設の良し悪しの判断にまで及びます。代償は大きく、職員は精神的にも負荷がかかるでしょう。思わず、そ

の責任は、果たして施設なの？と問いたくなります。しかしながら、施設は責任を負うことになるのです。経済活動における『Withコロナ』の必要性は承知しているつもりですが、福祉施設の『Withコロナ』には、勇気が必要です。不治の病といわれた白血病が、薬と治療方法の開発で致死率が下がりました。コロナ特効薬の認可が待たれますが、そう遠くありません。コロナも当たり前になります。

(福田恵理)

ほかにわ共和国の動き

- 11/12 神社祭
- 12月末 理事会
- 1/5 新年職員研修会

ほかにわ後援会より、法人内の事業所7か所に、「非接触型体温計付きオートディスプレイ」の購入・助成を頂きました。ありがとうございます。



マイフーム

マイコレクション

最近のマイフームは、孫と魚釣りに行くことです。海が近いので、時間が空いた日には晩御飯のおかずを調達に出かけます。

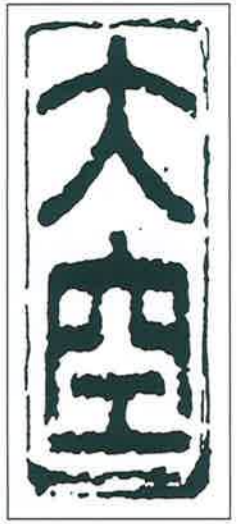
意外と孫の釣りの腕が良く、この前行ったときは小アジが六匹も釣れ、早速その日の晩御飯のおかずになりました。娘家族と合わせて八人家族の我が家では、六匹の小アジもペロリと無くなってしまいました。小アジは骨まで食べられるため、孫の身長も伸び、大漁の時は食料の足しにもなり、じいじとばあばの骨粗しょう症にも一役買って、「いい事尽くし」の魚釣りに、

今後とも孫と共に行動できるよう長生きしたいと思えます。

悠 雅

向 雅晴



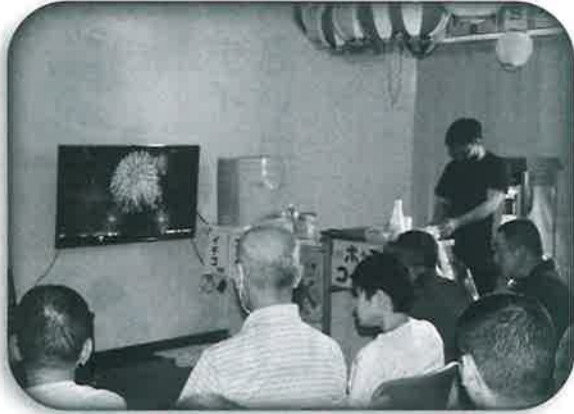


障害者支援施設 八雲寮広報部

八雲寮の縁日へ ようこそ！

今年も新型コロナウイルスの影響により法人内で開催予定の夏祭りが中止となり、各事業所で代替え行事を開催。暑さ対策として室内での開催となりイベント前から皆さん待ちきれない様子でしたが、時間になると食堂へ集まり自治会会長の進行を静かに聞かれました。

まずは食堂でお昼ご飯。焼きそば、いなり寿司、唐揚げ等の料理が振舞われ、皆さん美味しそうに食べられました。その後、生活棟へ移動。そこには縁日をイメージとしたかき氷やポップコーンの屋台、射的やボウリング、金魚すくいなどのミニゲームが準備されており利用者の皆さんは目を輝かせている様子が伺えました。ゲームでは景品をゲットし「やったー」、「これもらったばい」などの声も聞かれ、室内での開催ではありましたが、大いに盛り上がり楽しんでもらうことが出来ました。最後には花火の映像を音楽



花火上映の様子

作業風景をちょっと拝見 ~加工班~

加工班ではお菓子の箱折りと牛乳パックを使ったハガキ作りの作業を行っています。作業工程は利用者の方々には難しい作業もあり、みんなに楽しく取り組んでもらう為には「適材適所」が大事です。コツコツと長時間でも集中力が途切れない方、すぐに飽きてしまう方など様々ですが、皆さん真面目に作業に取り組んでいます。



作業の様子

今後も作業が楽しいと思えるように職員と力を合わせて頑張りたいと思います。(福田義郎)

と共に流し、皆さんは画面上に打ち上がる花火を静かに堪能されました。



金魚すくい楽しかったです！

- 今後の行事
- 11月 神社祭 ユニット活動
- 12月 クリスマス会 ユニット活動



お部屋も心もきれいに…

月に2回ユニット活動日を設定し、居室掃除や衣類整理等、各ユニットに分かれ活動しています。最近、持ち運びに便利な掃除機を整備しました。皆さん初めて使用するコードレス掃除機の使い方を職員より教えてもらいながら隅々まで掃除を頑張りました。これからも施設の備品を大切にしながら掃除を頑張っていきましょう。(松本竜平)



きれいになりました！

外へ出かけよう！



はいチーズ！

コロナ禍の中、少しでも利用者の方々の気分転換を図ろうと四グループに分かれ、久しぶりに外出をしました。今回の目的は、食事とおやつ購入。お好み焼き、肉、カレー、天ぷら：それぞれ食べたかった食事とおやつに大満足！食事後は、海水浴場のブランコに乗ったり、町内にある展望所で景色を眺めたり、外の空気を存分に味わいました。今度は町外へ行って、「またおいしい物を食べたいね」とみんなで語り合いました。(中島可奈)

がんばらば宣言

今回ご紹介するのは・・・？
農芸班で活躍されている
田口秀人さん



毎日作業を
頑張っ
ています！

入所日 昭和45年7月1日

じゃがいも雑感！

コロナ感染状況の対応もだいぶ緩和された今、季節も秋へと変わりつつ、一日の寒暖差がありますが、皆さん体調管理はできていますか？

今年度から相談支援業務を担当することになり、在宅の方はもちろん多くの方と話す機会が増えました。利用者様のニーズを知り、寄り添いながら…を基本に置いていますが、自分の気持ちにも余裕を持ち、笑顔を忘れずに対応することが大切なことだと思っています。日頃から取り組んでいくためには、まずは自分自身が心身ともに健康であることが必要です。

今年度も前期を終え、心身ともに我がモニタリングを試みたいと思います。後期の始まりです。

(総務主任 井村一美)

にゅーじゅも

10月号 No.207



放課後等デイ

夏の思い出写真館



夏休みといえば「夏休みの宿題」ですね。毎日コツコツ進める子や、たまに「したくなーい」と拗ねてしまう子もいたりします。それでも周りで宿題に向かうお友達がいることは、良い刺激になっているように思いました。



今年の果物の成果は？

夏季の果物狩りとしてぶどう狩りと梨狩りへと出かけました。ぶどう狩りでは千々石町の山越ぶどう園様にお世話になりました。初めて何う場所でしたが優しい園主の方で丁寧に教えて下さり、皆さん楽しまれました。試食も美味しく頂くことが出来ました。

毎年恒例である梨狩りは今年も有家町の山口梨園様へと向かいました。狩り体験を事前計画していましたが、コロナ感染者急増中でもあり、梨の購入のみに変更。利用者さんは外に出掛けることが出来ていましたが、やはり心残りだったのか

「来年は梨狩りしようね」と言われたので、来年も計画し実施しようと思っています。 高松 豊



デイ雲の夏休みの定番となった、大きなプール。今年は新一年生が二名仲間に加わったこともあり、少しコンパクトな物に新調しました。それでも縦二m・横四m・深さ一mと子供たちには十分な大きさで、浮き輪でぶかぶか浮いたり、潜る秒数を競ったり、端から端までバタ足の練習をしたりと、プールの中は大騒ぎです。

虫かごを持ってセミやクワガタを捕まえては大喜びでした。素麺流しやおやつ作り、縁日風のゲーム大会、ひまわり畑の迷路探検など児童にとつての夏休みは、年も違ってお友達や、多くの大人の方たちと一緒に過ごす、刺激いっぱい夏の思い出。ひと夏の思い出が、子供たちの心のアルバムに、カラフルに残ってくれる事を願います。

濱田 由佳



ヘルマンハープ特訓中～♪

障害者芸術祭参加へ向けて12月4日(日)、ありえコレジヨホールで障害者芸術祭が開催されます。ほかにわ共和国からデイ雲が中心となりヘルマンハープの演奏を披露する事になりました。

毎週水曜日に他事業所の利用者の方も交えて合同練習を行っています。久々に晴れの舞台上で演奏するので、利用者の方々も嬉しさと緊張でドキドキしています。当日はきっと素晴らしい演奏が出来ると信じて、職員と共に、練習を頑張っています。

光長 まゆみ



新規採用職員の紹介です



生活支援員 竹市 裕輝さん
利用者様との日々の会話を通して、笑顔を引き出せる支援員になれるよう頑張ります。

生活支援員 熊本 吉恵さん
利用者様が何を求めておられるのか考えながら、行動出来ればと思っております。

雲と虹

行事予定 11・12月

- 温泉浴・紅葉見物
- クリスマス会
- 利用者忘年会

※状況により延期・中止になる場合があります。

暑すぎた夏が過ぎ、さわやかな秋の気配を感じる間もなく冬に向かっていくのを実感しています。ほかにわの秋も楽しい行事とともに駆け足で通り過ぎていきます。

十月の運動会は今年も利用者様とスタッフのみの開催となりましたが、昨年よりは少しメニューを増やして一日楽しく過ごせました。

次は十一月の権田神社のお祭りです。ほかにわサポーターや近隣の方をお呼びする事は今年も出来ませんが、こどもたちが神輿を担ぐ「わっしよい、わっしよい」の掛け声が権田の杜に響いて、新型コロナの収束と皆さまの健康を呼び込んでもらいたいと思っています。

指導主任 山本 智恵美

悠炉里

共同生活援助事業所
(介護サービス包括型)
悠炉里広報誌

広がれ！地域交流は祭りから

コロナ禍で法人の夏祭りを縮小し、各事業所内で開催して三年になります。悠炉里夏祭りを開催した当初から、地域の方たちを招待してはどうかと話には出ていたのですが、日本中の雰囲気祭りや人の集まりに対し敏感になつていた為、実現はしませんでした。しかし、年々感染対策が身に付き、人が集まることに大切な目的があることに気づき始めた今年こそ、法人理念に謳つてある「地域共生」を実現すべく、悠炉里が所在する愛宕地区の一班の方々を、夏祭りへ招待しました。班には高齢の方々が多く、子ども



地域の子も達も来て楽しんでくれました！



室内でも楽しんでます！

に近所の方を誘ってもらうなど協力していただきました。何人来ていただけるかわかりませんが、利用者だけではなく地域の方にも楽しんでもらえるよう、実行委員は張りきって計画しました。

一方で、介護度が高い利用者や会場を歩いて見学するのが難しい方の為に、リモートで会場と食堂を繋げ、夏祭り会場の雰囲気をそのまま届ける事にしました。狙い通り、画面を見て、屋台のメニューを頬張りながら楽しめたようでした。

例年とは違う雰囲気、夏祭り感も増し、利用者・職員共に今年もやってよかったと満足が倍増したように感じました。来年はもっと参加者が増え、みんなで楽しめる夏祭りを創れるように職員一同意気込んでいます。

(夏祭り実行委員 荒木佳奈)

10月号

★スポットライト



ワークネットやはたで頑張っている田中博さんをインタビューします。

- Q. 稲垣荘へ来て半年経過しましたがホームには慣れましたか？
- A. ホームの皆がしゃべりかけてくれるので、楽しいです。
- Q. この夏、久々に帰省されましたが、何をしましたか？
- A. 家族で焼肉に行きました。

将来、一人暮らしをしたいと話される博さん。職員一同、地域移行出来るように支援したいと思います。(池永裕介)

今後の予定～ホーム活動～

- ・誕生会(スカイハイツ 杜垣荘・玉垣荘)
- ・運動会お疲れ様会 (瑞垣荘・紫雲荘)
- ・外出(悠炉里・湧雲荘・八重垣荘・朋雲荘・稲垣荘)

天草はお魚天国

九月吉日、ホーム活動として、みんなずつと楽しみにしていた『天草まで魚を食べに行こうツアー』を実施しました。口之津港からフェリーに乗り、熊本県天草市へ。一日一〇食限定の刺身定食を注文し新鮮な魚にみんな大満足！食後はイルカセンター・天草空港などを観光し、満喫できました。帰りはみんなまた来たいね、と楽しかったことを話し合いました。



この値段は安かばい！



イルカとパチリ 身定食を注文し新鮮な魚にみんな大満足！食後はイルカセンター・天草空港などを観光し、満喫できました。帰りはみんなまた来たいね、と楽しかったことを話し合いました。

→大広間では「水戸黄門」上映中！



手料理始めました

グループホームとして、今まで職員による手作り料理を提供していました。悠炉里から一人暮らしのために卒業された方の中には、料理を作ることがネックとなっている方たちが一番多く見られます。



この問題を考慮した結果「簡単な料理だけでも自分達で作れるようになるう」とワタミ(宅食)を使い、カット済み・下ごしらえ済の食材を煮たり焼いたりする料理を始めました。

料理に慣れない人にとって、ただ煮たり焼いたりするのも大変な作業です！一つひとつの工程に職員から指導を受けながらも、少しずつ上手に料理できるようになってきています！(井上翼)

自治会上映会開催！

恒例となった秋の悠炉里自治会上映会！お笑い時代劇、好みに分かれて上映会場も2カ所に分けました！『みんなに楽しかったと思ってもらえるような企画を考えていきたいと思ひます』自治会会長、山岡さんが話すように、終わった後の皆にはいい笑顔がありました。今年も大成功でしたね！(自治会担当 原川厚美)



誰もが初めての経験であったが、それぞれに知恵を出し合い協力し、支援者・利用者全員で感染者を増やさないよう声を掛け合った。今回の経験を通して今後感染者が出た場合に、どう対処・対応すべきか学べたと同時に、対応力の向上に繋がったと感じている。(指導主事 大場康生)

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 10月号



今年の旅行は...

毎年みなさんが楽しみにしている秋の旅行。

いつになったら以前のよう
な旅行ができるのかなと、こ
の時期になるとあちこちで楽
しみにしている話が出てい
ようです。



とてもそ
の殆どが
九州内を
希望され
何とか安
全に実施
できればと企画に余念が
ありません。

みなさんの喜び顔を
見たく、また自分達も一
緒に楽しめるような思い
出に残る旅行となるよう
当日の実施に向けてしっ
かりと計画中ですので、
みなさん楽しみにしてい
て下さいね。

ワークネットやはた この人

今回は 多田浩志 さんです



Q) 好きな食べ物は?

「ビーフカレーです」

Q) 休日のときは

何をしたいですか?

「町内の飲食店に行って、食事を
楽しみたいです」

Q) 仕事のやりがいは何ですか?

「製品の出荷に行くことです」

●リユヌではなんでも快く引き受けてくれる優しい多田さん、これからもみんなの力になってください。

散歩道

秋の気配も徐々に濃くなり、行楽シーズンはどこも賑わいを取り戻しそうな中、先日個人的なイベントで県外を訪れてきた。

もちろん必要最小限の行動範囲ではあったが、地方とはコロナの受け止め方も大きく異なりながら、しっかりと各所に対策が講じてある様子が窺えた。

国が全国的に示す内容は同じはずなのに、どうしてここまで見解が変わっていくのか、人が物事を伝えることの難しさを改めて感じながらも、その中に学びを得る事ができた。ワークの活動もこれまでの形態にひと工夫加えたものにし、皆さんに楽しんで頂けるよう正しい知識を備えていきたい。

(総務主事 白倉和裕)



やはた教育通信

いよいよ就職活動も本格化。前号でも紹介した卒業を迎える4年生。コロナの鎮静を待たずして迫る期限にやや慌て気味で活動しています。今回はハローワークへの求職登録と情報収集に合わせて就業・生活支援センター等への相談に...

ご本人が希望する職種は意外に多く、さっそく就業・生活支援センターに相談して実習の受け入れができないか協力していただくことにしました。

まだ実感を得るには至りませんが、目標は高く頑張りましょうね。(大村圭子)



けっこうむずかしいな...

職員

Newフェイス紹介



児玉敬介さん

みなさんのために
美味しい食事作り
を頑張ります

(荒木美和)

また行こうね!



「...」

「...」

(松本智恵美)

しほは、しほ

活力を生み出すこと

テイ雲柿の木 所長 原口由紀子



歳も近いと、距離もぐっと近くなります

昨年の四月発行の第60号のたためや会社の経営存続のため、十月発行第62号の紙面でも取り上げた若者が生み出す活力は、今夏もまたそのすご

い力を私達に見せつけてくれました。彼らは、子供たちにとって、楽しくて、うれしく、絶滅危惧種のような二十歳代とて、ワクワクが止まらない存在となりました。

従業員が、6割弱を占めています。人口の減少に歯止めがかからないわが国では、全国的に働き手の若返りに苦慮しています。会社は、若年層の採用

九月十三日、小グループ活動に出かけました。活動のテーマは、「普段と違うメンバーと景色のいい場所に行き写真を撮る。」行先は雲仙、有明、加津の3コース、4グループに分かれて出発。雲仙地獄めぐりや前浜海水浴場の「映えプラン」に乗ったりしました。九月

中旬なのに猛暑日となり、私のコースでは最近メデイアでよく取り上げられている、島鉄大三東駅にも立ち寄り、黄色いハンカチと海をバックに写真撮影しました。平日にも関わらず観光客が多い事に驚きました。

帰り道はみんなお疲れの様子。さて一番映える（見える）写真をとったのはどのグループ？（松永巧）



絵：石川智広さん

「ケーキ」

ハイッポーズ

リハビリ奮闘記



リハビリ奮闘記

—その式—

リハビリでは、基本動作、ADL動作訓練の他に、卓上訓練も実施しています。

「輪っか通し」は、手先の動きや目と手の協応練習、注意集中力向上を目的としています。草野さんも訓練の一環として、取り組まれています。集中して上手に輪っかを通されます。

道具は100円ショップで揃うので、ぜひみなさんやってみてください。

(浮田真帆)



草野さん集中してます

おしらせです

日々の送迎で相当な距離を走る公用車ですが、九月に一台を新しくリースしました。

後部座席でも見やすいディスプレイもついていて、送迎中でもテレビが見られるなど退屈させない事間違い無いです。

早速、車が変わったことに気づいて興味深々です。

車輦担当としましては、今後も安全な送迎になるよう、精進してまいります。

(佐藤祐太)



↑僕たちも幸せになれるかな？
←硫黄の匂いにつつまれて

虐待・身体拘束研修を終えて

支援中、虐待や身体拘束に該当しないかと思いつくときがあります。

今回の研修で、日常の支援における疑問や不安を参加者で出し合い、検討しました。

私たちは、支援に悩むとき、誰にも相談せず、一人で考え

応しがちになります。

しかし、独りではなく「チーム」で取り組む・考えることが、意外な方法を見える事に気づき、風通し

を、改めて学ぶことができました。

園田翔一郎

言の葉

今年も運動会の季節がやってきました。当法人にとって運動会は、一年の中で最も大きなイベントといっても過言ではありません。それ故、準備や練習の段階から、職員は肉体的にも精神的にも疲労困憊となる季節でもあります。しかし、コロナ禍の影響はここにも現れ、時間の短縮に伴うプログラムの削減、サポーターの受入れ制限、そして何より保護者の方の観覧中止が数年続いています。他の施設の保護者の方にお会いできる希少な機会でもあったため、私自身も残念に思います。原因はどうか、利用者の方たちは、今年もたくさん練習し、汗を流し、本番に臨みました。一人ひとりが主役になり、スポーツの秋の楽しさを、リアルタイムでお見せすることはできませんでしたが、今年もDVD作成をしますので、乞うご期待です。

(指導主任 福田恵理)

11月の行事

- 5日 ファミリー外出※
- 16日 誕生会

※印は参加費あり



郷土の偉人～三宅良斎とその一族 ③

口之津歴史民俗資料館長 松本 昇

1859年に『自由論』を書いたイギリスのジョン・スチュアート・ミル(1806-73)は、19世紀を代表する哲学者にして経済学者でもある。彼は父ジェームズ・ミルからきびしい英才教育を受けたことで知られている。父親のことをいま風にいえば、教育ママならぬ教育パパだった。

良斎もまたかなりの教育パパであった。彼は長男の復一(またいち。後の秀、ひいず)に、できる限りの教育の機会を与えた。以下は、その概略である。

- ・1854年(安政元年) 復一、7歳の時、杉竹外について漢書を学ぶ。 ※漢書とは、中国で記された書物
- ・1858年(安政5年) 川島元成について蘭書単語会話文典を学ぶ。 ※蘭書とはオランダ語で書かれた書物
- ・1860年(万延元年) 砲術で有名な高島秋帆(しゅうはん)のもとに入塾し、孫の太郎から英語を学ぶ。きっかけはこうである。1859年(安政6年)、神奈川が開港した。良斎は12歳になった復一に外国人を見せてやろうとして神奈川に向かった。その時、英語を話す水平を見て、「これからは英語だ」と悟った経緯がある。
- ・1860年 自宅で、良斎の指導で調剤、診療を経験する。
- ・1863年(文久3年) 開港したばかりの横浜を閉鎖する交渉のため、池田筑後守を団長とする幕府の第2回遣欧使節団が派遣された。復一もその一行に参加した。途中エジプトでスフィンクスを見て、その前で、日本人としてはじめて写真を撮った(一行の34人中、27人で)。その時、復一は数え年で16歳で、一行のうち最年少であった。



スフィンクスの首の辺りにいるのが復一である

- ・1865年(慶応元年) 横浜の英学校に入り、傍らへボン、ウェッデル等の家塾で医学を修めた。へボンは宣教師兼医者で、明治学院大学の創立者でもある。

良斎がシーボルトに会って話した時、独学で習得したオランダ語があまり理解してもらえなかった。そのため、自分と同じような苦い経験をしないように、息子には外国語を身をもって体験させようとしたものと思われる。教育熱心な良斎の期待に応じて、後に秀(復一)は、日本初の医学博士号を取得し、東京大学医学部の初代学部長になる。(つづく)

驚き真田幸村神社

口之津史談会員 竹下昭平

私は南島原市ガイドの会有馬の郷の会長の任にある。数年前、ガイドの仲間から北有馬に「幸村神社」があることを知らされ驚いた。神社(祠)の写真や高力家の系図を見て納得した。先祖が高力家の家老だった志賀君と史談会の仲間と近い内に神社を見に行くことが楽しみだ。

政事・祀り・祭り・祭りとコロナ

フラットととき



長崎の諏訪神社の「おくんち」がコロナ禍で三年連続で中止になった。観光の目玉でもあり打撃を受けている。ほかにわ共和国も神道系の福祉であり「まつり」を大切にしている。志賀幸村翁の福祉に対する概念を復習してみたい。翁は「福祉は氏子のまつりごとである」の理念、知的障害者の幸福論と関連させていた。その達成には3つの要素があると指摘していた。一つは政治の字の「政(まつりごと)」、二つは部落神の「祭りごと」、三つは祖先や自然

に感謝し「祀ること」である。そして、神道では神のいただき物を共に食すること「直会(なおらい)」が大切であることも示唆していた。翁は、福祉の文字の「福」と「祉」の漢字について、神道の歳時の目線で論じていたのが興味深い。それによると「福」の「示偏」は神様に供え物をする台の事で、白木の四角い盆を足の部分が四角い箱状で三方に空間が出来ている木製の小道具を意味している。「福」の「旁(つくり)」は神にお供えされた乳白色の徳利(瓶子「へいし」)に六合目ぐらい満たされたお神酒を、車座になって瓦化(かわらげ)でいただくことを指している。と、自分のことではなく、隣人の幸せを話し合っている姿である。と論じていた。さて、コロナになってからは、自分のことが優先され、他人事は我れ関知せずのスタイルが強くなったのではないだろうか。そうした視点で「政事・祀り・祭り」を再認識する時が来たのではないだろうか。コロナという厄介な禍(わざわい)を、「災い転じて福となす」の知恵の創出である。

ボニージャックスコンサート

馬場伯明(順天堂大学勤務)

8月30日、志賀理事長に誘われ横浜市の「ボニージャックスコンサート(西脇久夫さんの一周忌記念)に行きました。松倉とし子さんとの共演にボニージャックス合唱団「花みずき」も加わり全員で故人を偲びました。定番の「ルイジアナママ」や「さらばジャマイカ」から童謡「しゃぼん玉」や「赤い靴」まで美しいハーモニーの熱唱に酔いました。

終演後、37年前の出版記念会で鹿島武臣さん(88)に貰っていた知的障害者の詩や絵を編集した「空とぶうさぎ(1985)」を見せました。当時の八雲寮の詩「汗(松竹浩)」と絵「城台先生(西平豊)」が載っています。「ありがとう」と応える鹿島さんと握手を交わし志賀理事長たちと磯子の杉田劇場を後にしました。



馬場伯明・志賀俊紀・藤本 元

北有馬の山奥に真田幸村神社
何故肥前の国島原に真田神社があるのか謎に満ちた話が郷土史の勉強会で指摘された。
島原の藩主の動向を調べてみると、クリシタン大名の有馬晴信から、外様で見栄と権力むき出しの松倉の二代藩主時代に島原の乱が勃発して、戦後処理で入府した高力忠房の移民政策の成功は評価された。二代目藩主高力は失政し改易された。真田と高力の謎は高力忠房の正室まんにある。
まんは、幸村の兄・信之と康の養女で本多忠勝の娘小松姫の間に生まれた娘だ。謎解きは今始まろうとしている。